

『一つの家を建て』(サムエル記第二 7章 4-17節) 2022.11.27.

<はじめに> クリスマスまでひと月となり、アドヴェント(待降節)に入りました。クリスマスはイエス・キリストの誕生を祝う時です。それは歴史を遡って、昔から約束されたものでした。

I 主に家とダビデの家

①ダビデの気づき(1章~7:2)

サウル王死後の跡目争いを経て、主の約束のとおりダビデは全イスラエルの王となり、神の契約の箱もエルサレムに運び上げ、主が周囲の敵から守られて安息を与えられたとき、彼はふと気づきます。「この私が杉材の家に住んでいるのに、神の箱は天幕の中に宿っている」(2)と。

②家を建てる(3-17)

ダビデは預言者ナタンに主の家を建てたいとの思いを打ち明け、彼も賛同します(3)。しかしその夜、主のことがナタンにあり、主の思いが異なることを示されました。ダビデが主のために家を建てようと言うが、むしろ主がダビデのために一つの家を造ると。

③人の思いと主の思い

私の思い・道に主が異を唱えられることがあります。良い動機から最善を願っているのに、です。その時、どう感じ、向き合いますか。主はダビデの思いと計画をどのようにみとられるでしょうか。箴言 3:11-12、イザヤ 55:8-9 も読んでみてください。

II とともに歩まれる主(4-11)

①民の中に住まれる主(5-7)

出エジプト以来、主はどんな指導者・部族にも「わが家を建てよ」と命じられませんでした。民の宿営の中の天幕を住まいとして、民とともに歩み導かれる御方です。「わたしは、高く聖なる所に住み、砕かれた人、へりくだった人とともに住む」(イザヤ 57:15)と言われます。

②民に安息を与える主(8-11)

士師の時代(11)以来、嗣業の地カナンに住むためにイスラエル民族は周辺諸民族と戦い続けて来ました。主は羊飼いだっただビデをイスラエルの王とし、勝利と誉れを与えたことにより、イスラエルの民に安息を与えられました。主がともに住まれたからです。

③今も主は

やがてクリスマスで、御子イエスが人となって私たちの間に住まわれました(ヨハネ 1:14)。イエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊が、主を信じる私たちの内に住んでおられます(ロマ 8:11)。「地の上で、平和が、みこころにかなう人々にあるように」(ルカ 2:14)。

III 約束される主(11-17)

①王国を確立させる(12-13)

ダビデの思いを受けて、主はダビデのために一つの家を造り、彼の子々孫々が王座に就き、王国を確立させる、と約束されます。イスラエル王国はやがて滅びますが、ダビデ家系はマタイ1章の系図のとおりイエス・キリストに至り、永遠に確立されます(ペリピ 2:9-11)。

②「主のために」を取り上げる (13)

ダビデの思いと動機を、主は喜び受け入れ、ダビデの世継ぎが主の名のために一つの家を建てると約束され、ソロモンによって実現します(I 歴代 22:7-10)。「主のために」と立ち上がる者を主は用いられ、主は彼の思いも受け取り、喜びと祝福をもって覆われます。

③人の杖・むちと主の恵み(14-15)

主はダビデ王家との関係は父子関係だと言われます。彼が不義を行えば、人の杖・鞭で懲らしめが与えられますが、恵みとあわれみ(赦される道)が取り去られることはない、と約束されます。この恵みとまことは、イエス・キリストによって実現しました(ヨハネ 1:16-17)。

<おわりに> ダビデの気づきから出た思いを受けて、主はさらにまさることをダビデとその子孫に、そして私たちに至るすべての人への祝福を約束されました。それがイエス・キリストの降誕によって具体化しました。それをダビデのように(18-29)我がものとして受け取りましょう。(H.M.)